

じゃっどスタディツアー報告

小幡 順子



12/24-31 参加者 13 名

12/24 (土) 鹿児島空港集合。

JAL654 鹿児島 20:30 発 羽田 22:00 着
JAL0033 羽田 00:05 発 バンコク 06:00

12/25 (日)

JAL5971 バンコク 09:45 発 ビエンチャン 11:00 着。昼食後ホテルチェックイン。
のワットプラケオやワットシーサケートなど見学。ルアンパパン組と合流後ラオス料理店で夕食。

12/26 (月)

9:00 通訳の虫明氏と合流後、カムムアン県タケクに向けてバス移動。
16:00 タケク到着。メコン川沿いのテラスにてタイ側に沈む夕陽鑑賞後、中華料理店で夕食。希望者には近くの屋台街へ

12/27 (火)

7:30 ホテル出発。
9:30 セバンファイ地区トゥン村小学校到着。贈呈式の後、机椅子募金で作成した机椅子に記名作業。木陰で子供たちと交流会。その後、村人と会食、文化交流（踊り等）
14:00 小学校出発。隣接する小学校見学後、教育局訪問。
14:30~15:45 セバンファイン地区病院見学。支援校のあるセバンファイン地区にある唯一の公営病院。広い敷地に真新しい病棟があるが、診察室、検査室は物品不足。ラオス中部の聖地といわれるメコン川沿いのシーコータボーン大仏塔参拝。ホテルに帰る前にシンダート屋にて夕食

12/28 (水)

8:00 タケク発ビエンチャンに向けて移動。途中、モン族の市場視察。
15:30 チャンパーガーデン(250種 2000本植樹) & レストラン着。オーナーは「チャンパーの花」の作曲者の娘さん。
ディインホテルチェックイン後、ナイトバザール等視察。

12/29 (木)

9:00 ホテル発
午前中、帖佐理事長・事務局長は今年から始まった老人クラブ活動支援見学のために別行動。
その他の参加者は、国立リハビリテーションセンターの一角にある国際 NGO「COPE」施設を見学。その後、タラサオ(朝市)、パトゥーサイ、ワットタットルアンを見学。
Dr コンサップ家の招待で昼食。じゃっどをサポートしてくれている Dr マニパン、アジャンも同席。ラオスの結婚式やお祝いの席には欠かせない麺料理「カオブン」をはじめココナッツミルクを使ったラオ伝統菓子等。
14:30 ビエンチャン市内サムケ小学校訪問。職員用机椅子 5 組寄贈・記名作業 2002 年からの支援校。2002 年寄贈したトイレの傷みがひどかったので昨年度改修費を補助。
ラオスを代表する手工芸「織物」を扱う店や綿製品の店等視察。
ラオス料理屋に虫明氏(通訳)家族を招待し夕食。

12/30 (金)

JAL5970 ビエンチャン 13:40-バンコク 15:00
JAL0034 バンコク 22:25-羽田 06:00
乗り継ぎの時間を利用してバンコク市内観光を計画していたが遅延の為、実施できず。

12/31 (土)

JAL0643 羽田 08:15-鹿児島 10:15
鹿児島空港にて解散

今回は 12 月 22 日発ルアンパパン観光のコースも実施。

12/22 出発鹿児島ー羽田ーバンコクールアンパパン
12/23-24 市内寺院観光、パクオー洞窟、サンハイ村(焼酎)、サンコン村(織物)、象乗り体験、ナイトバザール、朝市(托鉢)

12/25 市内寺院観光、バザール等
午後、ビエンチャンへ出発、ディインホテルで合流以降、後発組と同じスケジュール。

ラオスタディーツアーに参加して

鹿児島大学医学部医学科3年 野崎脩平

私は、大学の先輩方からの紹介で「認定NPO法人 ジャッド」のみなさんの活動を知りました。ラオスという国がどのような所か、どのような人が住んでいて、どんなものを食べているのか。先輩方の、部活にて行われた報告会のプレゼンを受けて強く興味を持ったのが最初のきっかけです。

ツアーに参加させていただけることになり、いざ首都ビエンチャンに到着して最初に、予想以上に発展していると感じました。私の中で勝手に作られていた発展途上国ラオスのイメージとはそれはかけ離れたもので、数棟ですが高層ビルまで散見されました。首都主要部は、以前短期留学でインドネシアに行った際に見た首都ジャカルタの街並みにも近いものがあったように思います。

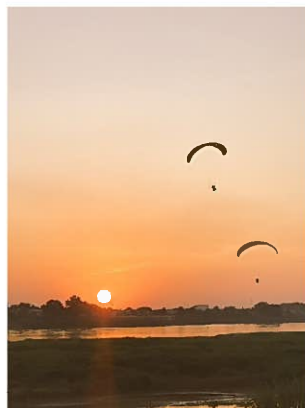
それからの一週間は毎日大変密度の濃いものでしたが、特に印象深かったものを挙げておきます。

まずはラオスの教育制度についてです。今は改正されたそうですが、以前まで小学校5年間、中学校3年間、高校3年間だったらしく、大学に入学するには海外とのずれの帳尻あわせのために大学一年生になるのに一年間かかったという話を、病院見学の際に聞いて驚きました。この国が発展しつつあることを反映している事例のひとつではないかと思えます。

また、「教科書で勉強したことがある」の域を超えていなかったベトナム戦争について、義手・義足支援NGO“COPE”をたずねて学ばせていただく機会がありました。物資・兵力輸送の要所であったホーチミンルートアメリカ軍が爆撃し、その不発弾の影響でラオスは一人当たりの不発弾の数が最大の国となっています。未だに起こる不発弾による事故への悲痛な思いが、文献だけでなく実弾の派手ともいえる展示等で視覚的にもひしひしと伝わってきました。

それから、なにより印象的だったのがメコン川の力強い夕焼け、正五角形に咲く国花のチャンパー、文字通り金色に輝くタートルアンなど、美しい景色たちです。もちろんたまらず写真に収めていますが、脳裏に焼き付いて離れません。

これらのかけがえの無い体験をさせていただいた「ジャッド」の皆さんにはとても感謝しています。ありがとうございました。



ハンググライダー

コプチャイライライ！

鹿児島県立川内高等学校 2年 白男川 知香

わくわく、どきどき。ラオスに行く前の私の気持ちを表すのに、ぴったりの言葉である。看護師を目指している私は「青年海外協力隊」の前身である「日本青年海外協力隊」の一番初めの派遣国であるラオスにとっても求知心が揺さぶられていた。そして、ラオスだけでなく「じゃっど」の活動について調べれば調べるほどに、現地の医療行為や支援活動、子供たちの健康教育などを実際目で見て体験したいという思いが強くなるばかりであった。ことばでは表せないほど、一抹の不安さえ入る隙もないほどの大きな期待を胸に私は日本をたったのだった。



現地は道路の舗装状況であったり、上水道がまだまだ行き届いていない状況であったりと、至る所に貧しさを感じることができた。昔とは違い、経済発展により広がり続ける貧富の差。ODAの支援に頼りきりの状態。そういった環境や人々とのふれあい、そして、農作業の効率をよくする為に、稲刈り機を支援したところ結局使われることがなく、無駄になってしまったなどの他の途上国での具体的なお話などを通して、(↑水道水施設) 支援の形を考える必要性を大きく感じた。自分たちを基準にした自己満足的な支援ではなく、相手の要否を問い、それに応じた支援が大切なのだと思えさせられた。

私は何不自由なく暮らせている、今の日本のような状況がなんとも「幸せ」だと思っていた。しかし、ラオスを訪れ、日本のような恵まれた幸せではなく素朴な幸せを感じることができた。言語も話せず、初めは通貨すらろくに使えなかった私たちに、町の人たちや子供たちはとても親切にしてくださった。まぶしい笑顔を見せてくれた。お金がある事だけが幸せではない。幸せの形も多様であると思わずにはいられなかった。



ある医師の方が、「人と人との間に心がある。」とおっしゃっていたが、人と人の間に幸せも芽生えるのだと私は思う。きっと、これからの私は人とのつながりを通して、多くの道を踏みしめ、幸せを感じるだろう。今回私にこのような機会を下さった皆様や共に学んだ方への感謝をかみしめながら。

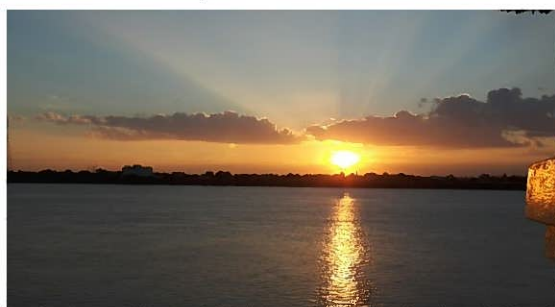
スタディツアーに参加して

川内商工高等学校商業科1年 土川志織

今回、私は初めて「ラオス」という国へ行きました。私はもともと人の役に立ちたい・人の為に何かしたいと思っていました。そこで、じゃっどの海外派遣の募集を知り思い切って応募しました。

私はラオスに行って特に思い出に残った事が3つあります。

1つ目は、12月27日に視察に行った小学校です。そこで私は、ラオスの小学校は5年生までしかないという事を聞いてとても驚きました。日本は小学校が6年で中学校が3年ですが、ラオスは小学校が5年で中学校が4年という事を教えてもらって、知ることが出来ました。



その小学校に着くと、子供たちが花束と花の首飾りをプレゼントしてくれました。生徒達と一緒に踊ったりして遊んでいると、子供たちがニコニコしてくれて嬉しかったので応募した甲斐があったなと思いました。

2つ目は、12月29日に行った義足や義手を作っている「COPE」という資料館です。ここでは、義足や義手が展示されていて、不発弾や地雷によって手足が無くなってしまった方々の為の義足や義手がありました。私は、館内で流れていたビデオに釘付けになってしまいました。何が流れていたかという、幼い男の子の足が地雷によって無くなってしまっ、義足を作っているビデオでした。その男の子は義足を付けると、とても嬉しそうでした。また、資料館の隣の建物では、実際に義足や義手を付けて、リハビリをする施設もありました。そこに行くと、資料館の中で見たビデオの様な光景が見られて、本当に嬉しそうだなと思いました。

3つ目は、メコンサンセットやナイトバザールです。メコンサンセットは、今まで見た夕日の中で一番綺麗でした。ナイトバザールでは、家族や友人にお土産を買いました。かわいい小物入れや、Tシャツがあって、ついつい買ってしまいました。昼のラオスも好きですが、夜のラオスも賑やかで1日中楽しめる国だなと思いました。

本当に充実した1週間を過ごせたと思います。皆さんと一緒に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



じゃっどスタディツアーに参加して

鹿児島大学教育学部附属中学校 2年 若松晴香

私は“先進国”を訪れたことはあるが、“発展途上国”には行ったことがなかった。発展途上国に対するイメージも教科書で見る程度だったので、実際に行ってラオスという国に触れてみたいと思った。

今回のツアーの目的である学校訪問では、驚いたこともあったが、その分、ラオスの子供たちの優しさに触れることができた。純粋な笑顔で花の首飾りをかけてくれたり、私が折り紙を折って子供たちに渡したとき、少しはにかんで、でも嬉しそうに「コープチャイ」と言ってくれたりして、言葉は通じないけれど一緒に笑い合えてすごく楽しかったし嬉しかった。本当に心が豊かだということを感じてしまった。訪問先の学校の教室には電気もないし、暑いときや寒いとき、エアコンもないし、トイレに行くのもわざわざ外に出なければいけないし、日本と比べるととても不便だ。しかし、その不自由な暮らしの裏には、ラオスの人がお互いに助け合い、協力し合い、1日1日を自らの努力でより良いものにしていくのではないかと感じた。子供たちも先生方も、みんな笑顔で生き生きとしているのがすごく印象的だった。この国は、経済的には発展途上国でも心は先進国だと思った。

もし、このじゃっどスタディツアーに参加していなかったら、ラオスを訪れる機会があったとしても、それは観光目的でしかなかったと思う。このツアーだったからこそ、普通は行けない学校を視察したり、ラオスの文化に実際に触れることができた。日本のこの恵まれた環境は当たり前でないことをよく理解し、感謝したうえで自分自身を高めていける人でありたい。



じゃっどスタディーツアーに参加して

今村 彩未

今回、じゃっどスタディーツアーに参加させていただきありがとうございました。

「認定 NPO 法人じゃっど」の皆さんがラオスで子どもたちの学校保健のお手伝いをして
いることを知り、異国の公衆衛生を肌で感じたいと思い希望しました。

私は今年の 3 月に看護師の資格を取得し医療現場で働いています。医療は日々進歩する
なか開発途上国では未だに多くの子どもたちが栄養不良や感染症により命を落としていま
す。このような子どもたちが健康に育ち教育を受けられるようにお手伝いするじゃっどの
活動に共感を持ちました。

初めての海外であり期待と不安、緊張の気持ちで出発しました。ラオスに到着し感じた
ことは、歴史を感じる風景のなかに現代社会が混在していることです。古代からある寺院
などの建物の美しさに感動しました。しかしその前を行き交う車やバイクの多さにびっく
りしました。ラオスの方々はどこにいても私たちを温かく迎えてくださり、すれ違うた
びに両手を合わせ「サバーイディー」と声をかけてくれたことが印象に残っています。今
回のツアーは、日本で決して体験できないような刺激的な毎日を送ることができました。
象の背中に乗った時は、絶叫マシーンのようなスリルを味わいました。メコン川に沈む夕
日を眺めながらのビールはとても美味しかったです。

なかでも深く印象に残っていることは子どもたちの笑顔です。視察学校に到着した際は、
想像以上に熱烈な歓迎にびっくりしました。息のびったりあった踊りはとても素晴らしか
ったです。初めは少し恥ずかしそうにしていた子どもたちとすぐに打ち解け、シャボン玉
や折り紙を一緒に楽しみました。興味津々に近寄ってきて、私たちに弾けるような笑顔
をみせてくれました。

私はこの子どもたちが健康に満足な教育を受けて大きくなってほしいと思いました。同
じ地球上で生活しているなかでも日本とラオスではまだまだ大きな差があることを改めて
実感しました。じゃっどの活動は子どもたちの学校保健の場だけでなく未来への生きる希
望を与えているのではないかと思います。何より、大人の習慣はなかなか変えることは
難しいけれど、教師に教育し、教師から子どもたちに伝え、子どもたちが家庭に広げてい
くという「小さなお医者さんプロジェクト」はとても素晴らしいことだと思いました。そ
して予防することがいかに大切かということを再認識することができました。また、じゃ
っどスタッフの皆さんが継続して支援を行い、定期的にラオスを訪問することでラオスの
方々と強い絆で結ばれていることを感じました。

私たちが当たり前だと思っていた日常も一歩海外に足を踏み入れたらそこは別世界が広
がっている。日本では、学校教育や医療の場面など何不自由なく生活できていることに感
謝しなければならない。もっと一日一日を大切に、今自分ができることを精一杯組み
たいと思いました。今回のツアーで自分自身の視野が少しだけ広がったように思えます。
多くの貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

ラオスタディーツアーに参加して

武田 美和子

私がこの研修に参加した目的は2つあります。1つ目は、「ラオスの子ども達との交流」、2つ目は「異文化体験・理解」です。

タケクにある小学校を訪問しました。子ども達が校門前に整列し、笑顔で出迎えてくれ、その後の交流が非常に楽しみになりました。最初に、タオルと机・椅子の贈呈式が行われました。教育長をはじめ先生方が非常に喜んで下さり、皆さまからお預かりしたタオル等を無事届けられたことを嬉しく思いました。机に、ラオスの子ども達の明るい未来を願って丁寧に寄付して下さった方々の名前を記入しました。次に、小学校の先生方が歓迎会をして下さいました。日本の演歌のような曲に合わせて踊る子ども達はとても可愛らしかったです。



日本の学生さんからも出し物をしました。おはら節では、私が「やーま。まーる。」と踊り方を教えると子ども達は真似をして「やーま。」と言いながら笑顔で手を動かす姿に言葉（言語）よりも心だと感じました。先生方と話をしながら地元の料理を楽しみました。どの料理もとても美味しかったです。その後、子ども達と日本から持ってきた「シャボン玉」や「おりがみ」で交流しました。子ども達は目をキラキラ輝かせていました。私はおりがみで「クリスマスリース」の作り方を教えました。初めは「作って！」とお願いしていた子ども達も徐々に作り方を覚え、自分たちで教え合いながら作る姿に「やってみたい」や「知りたい！」という子ども達の好奇心を感じ、嬉しくなりました。物や情報に溢れ、忘れかけていた気持ちをラオスの子ども達から思い出させてもらった気がします。持っていったおりがみすべてがリースになり、私にとって、素敵なクリスマスプレゼントになりました。



ラオスに行って驚いたことは、料理がとても美味しいことです。特に「もち米」。日本ではもち米は「お祝い」の時に食べることが多いですが、ラオスでは「腹持ちがよい。(貧しい)」という意味があることも知り、同じアジア圏でも違うことに驚きました。手で軽く握って食べるのも風情がありました。また過去にフランス領だったこともあり、フランスパンもよく食べることに歴史を感じました。



歴史といえば、悲しい過去？現在？の歴史にも触れました。ビエンチャンにある COPE という義足を作ったり、リハビリをしたりする施設を見学しました。ラオスには、ベトナム戦争時に捨てられた爆弾（怪我をさせることが目的）がたくさんあり、今でも多くの人が農作業中に知らずに踏んでしまったり、子どもがおもちゃと間違えて触ってしまったりしたために、手足を失う大きな怪我をしているそうです。一見昔ながらの日本の風景が残る平和な景色にも、戦争の爪痕が残っており、戦争の悲惨さを改めて感じ、ラオスの人たちのために何かできることはないかと考えさせられました。



その他にも、多くのことを体験し学びました。この研修を通し、出会った方々への感謝の気持ちを忘れず、学んだことや考えたことを今後の自分の生き方に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

ラオスに感動

島田 真理

ラオスのスタディツアーに参加させて頂き病院スタッフはじめ皆さんに心より感謝いたしております。とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。子供たちの笑顔は万国共通、目がキラキラと輝き愛らしく最高でした。

小学校訪問を行い子供達はもちろんの事先生方との交流も図ることができました。先生が子守をしながら授業をされていて、また学校に自分の子供を連れてきている先生もいました。

仕事をする傍らで母として頑張っている姿を見ることもできました。日本ではありえない光景であるものの、働く母親にとってラオスは寛大でありがたい国だと感じました。子ども達と触れ合う機会にも恵まれ、折り紙、シャボン玉、ダンスと様々な遊びが一緒にできてよかったです。そして手元にあったメモとペン、口紅・・・ひらめきました。

メモに「ありがとう。幸せでありますように。GOOD LUCK!」とメッセージを書き込みお守りとしてプレゼントしました。お守りを通して、日本語や英語に興味が出てきたり、いろんなことに好奇心を持ちチャレンジする子供がいてくれたらと、思いを込めて渡しました。

女の子たちはおしゃれで、みんなに口紅をしてあげました。鏡をみせてサムライ（きれい）と声をかけると、はにかんだ何とも言えないかわいい笑顔になったのが印象的でした。子供たちが夢を実現し素晴らしい人生を送ることを祈っています。

感動体験をたくさんさせていただき、感謝です。ありがとうございました。

ラオスについて

立石奈菜子

私が初めて異国の国に訪れたのは、ラオスという国でした。一番心配したのは、自分はラオスという国でやっていけるかと不安でした。案の定飛行機の中でホームシックになってしまいました。ですが、ラオスに着いてからはそんなのは吹き飛んでしまい、異国の魅力にやられてしまいました。感動さえしてしまい、今現在私は異国の地に立っているんだということに感動しました。

そして、やはり驚くことは沢山ありました。まず驚いたのは食べ物でした。悪い意味の驚いたではなく、良い意味の驚いたで、ものすごくおいしかったです。そして、二度見してしまう料理もでてきました。ですがその料理もおいしかったです。

次に驚いたのは・・・驚いたというかショックでした。あれは忘れられない光景でした。ナイトバザーという市場に行って市場を見て回ったのですが、一番異様な光景でした。子供が両手を縛られていて母親になにかを訴えていて・・・今でも目からその光景が離れられません。

ラオスの国で、色々と学びました。色々と刺激をもらいました。母に感謝してもきれえません。ボランティアもとても勉強になりました。子供たちにも触れ合えてよかったです。私は、本当にラオスに行けてよかったです。



じゃっどスタディツアー-2016

